

SDGs時代のユニバーサルデザイン

UDの読み方をアップデートする

調査研究委員会ユニバーサルデザイン研究部会

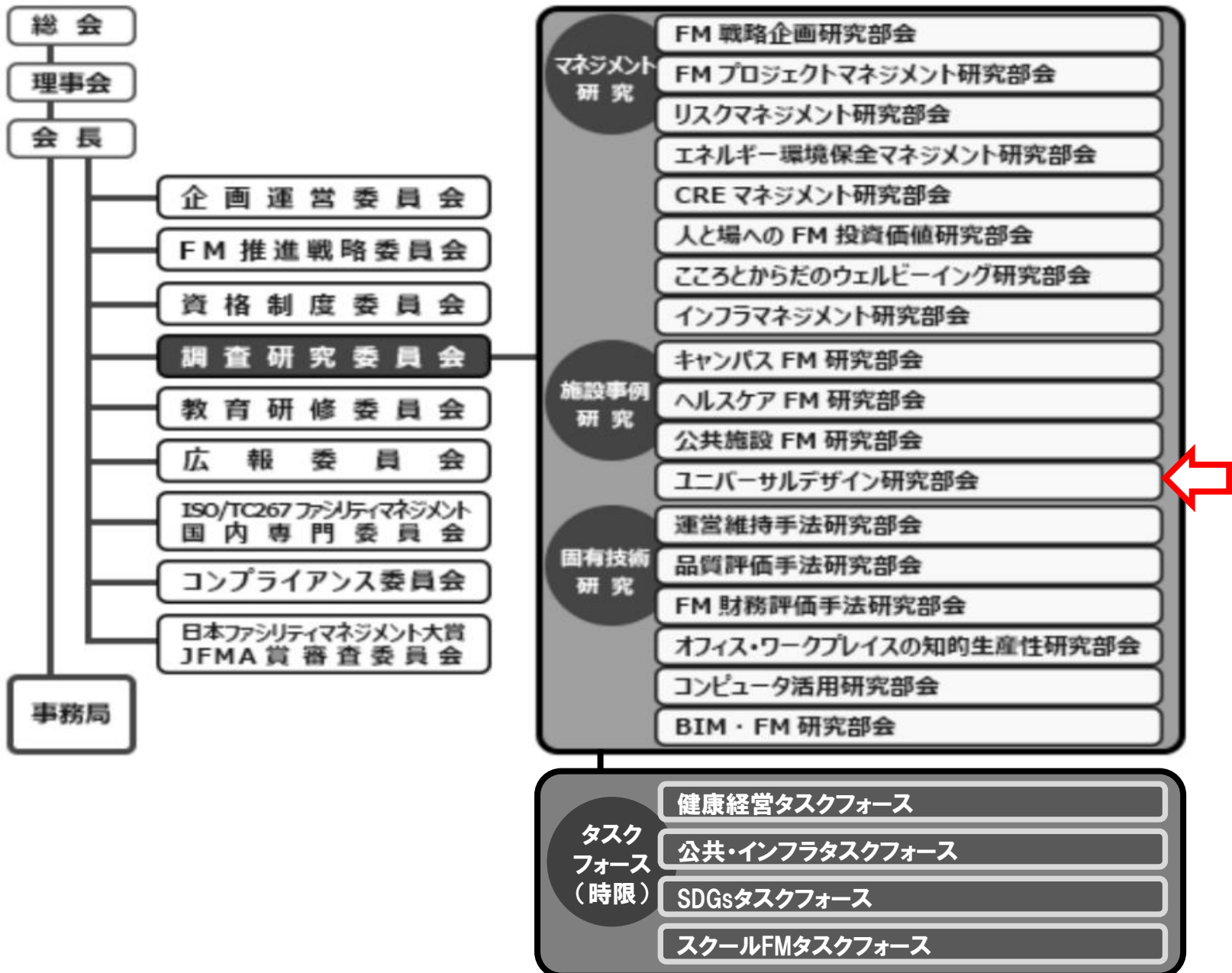
似内志朗



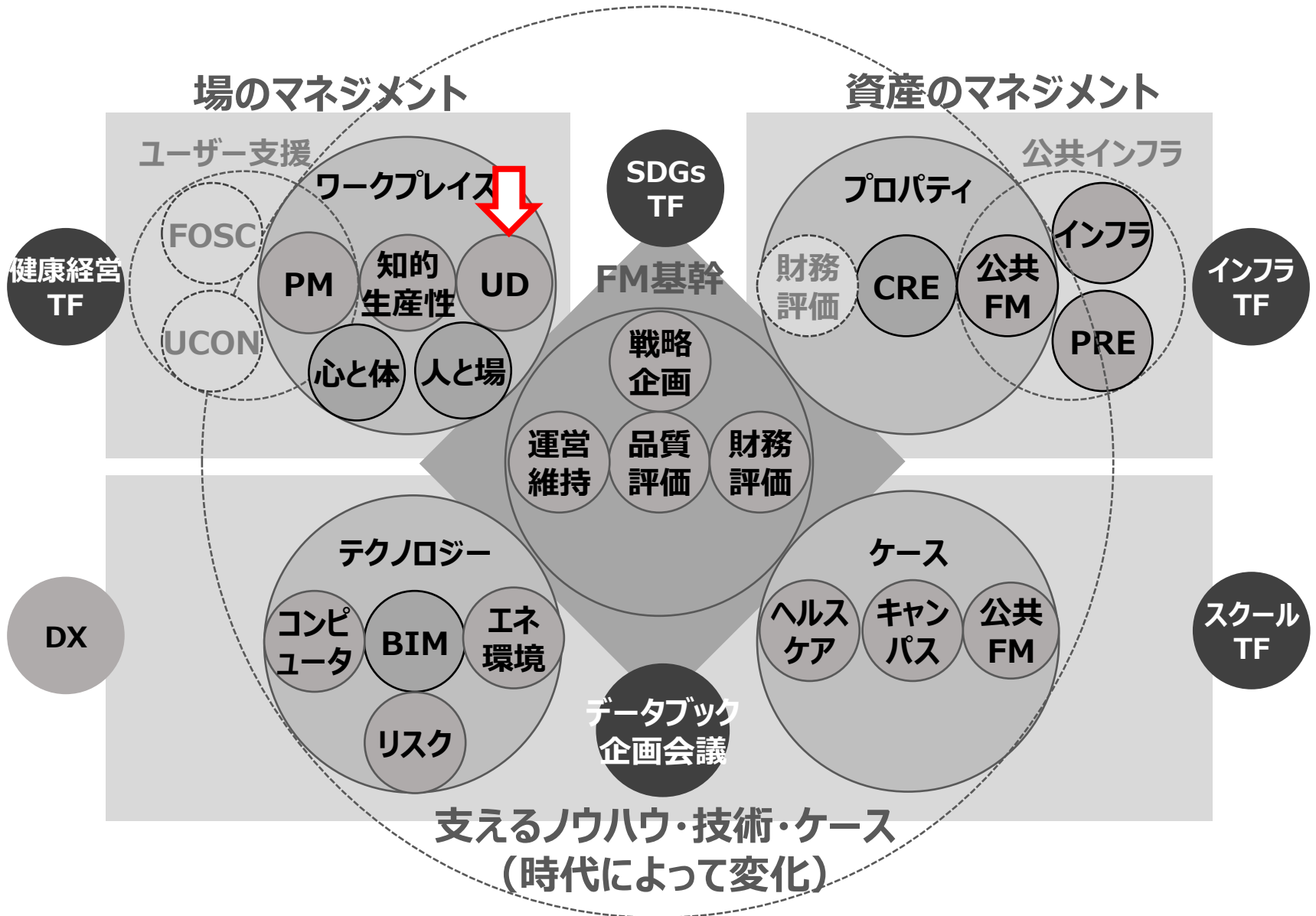
ユニバーサルデザイン研究部会のご紹介

調査研究委員会は、18研究部会と4タスクフォース

調査研究委員会のご紹介



調査研究委員会 曼荼羅



- ・調査研究委員会としての活動：委員会、FMフォーラム、秋の夜学校、**JFMAジャーナルR**
- ・部会・タスクフォースごとの活動：定例会、企画セミナー・シンポジウム、調査研究報告書、書籍出版、他団体との共同企画など
- ・現状、各部会活動は**活性化**。
- ・最大限、**部会の自主性尊重**（ボランティア参加。**内発的動機がすべて**）。
- ・委員会としては、**時代のニーズを先取り**し、研究部会・タスクフォースを新設。
- ・研究部会の**タスクフォース化**を進める（ニーズ変化、短期化に対応）
- ・委員会の役割：①**時代の方向見極め**、②**部会・TFの活動環境づくり**、③**相談**



ユニバーサルデザイン研究部会

ミッション 「オフィスのユニバーサルデザイン導入の価値を明らかにし、導入の道具立てをつくる」

● 調査研究報告書：2004「オフィスのユニバーサルデザインに向けて」、2006「オフィスのユニバーサルデザインUD評価」、2008「オフィスのユニバーサルデザイン導入事例」、2009「4「オフィスのUDを語る」、2014「ダイバーシティの時代」

● 活動：FMフォーラム、IFMA ワールドワークプレイス、IAUD国際UD会議、日本建築学会大会、KFMAソウル大学シンポジウム、シンポジウムなど多数参加。メンバー約10名。



研究成果 (発表資料一覧)

各項目の資料は、右側のアイコンをクリックしていただければ、ダウンロードできます。

01_ I FMA ワールドワークプレイス

01	2003.03 ワールドワークプレイス2003横浜 (プレゼン)	391KB PDF
02	2003.03 ワールドワークプレイス2003横浜 (論文英文)	656KB PDF
03	2003.03 ワールドワークプレイス2003横浜 (論文日本語)	778KB PDF
04	2003.06 ワールドワークプレイス2003プラハ (論文英文)	167KB PDF
05	2003.11 ワールドワークプレイス2003ダラス (プレゼン)	1.998KB PDF
06	2003.11 ワールドワークプレイス2003ダラス (漫画英文)	661KB PDF
07	2003.11 ワールドワークプレイス2003ダラス (論文英文)	340KB PDF
08	2004.04 ワールドワークプレイス2004ソルトレイク (概観英文)	21KB PDF
09	2005.10 ワールドワークプレイス2005フィラデルフィア (論文英文)	337KB PDF

02_ J FMA FM国際大会・J FMAフォーラム

01	2003.11 FM国際大会 (プレゼン)	870KB PDF
02	2003.11 FM国際大会 (論文)	98KB PDF
03	2004.11 FM国際大会「オフィスのユニバーサルデザインに向けて」(プレゼン)	709KB PDF
04	2004.11 FM国際大会「オフィスのユニバーサルデザインに向けて」(概観)	247KB PDF
05	2004.11 FM国際大会「オフィスのユニバーサルデザイン評価手法」(プレゼン)	596KB PDF
06	2004.11 FM国際大会「オフィスのユニバーサルデザイン評価手法」(記事)	551KB PDF
07	2004.11 FM国際大会「オフィスのユニバーサルデザイン評価手法」(概観)	104KB PDF
08	2007.03 JFMAフォーラム 2007 「ユニバーサルデザイン評価手法(CASUDA)」(プレゼン)	684KB PDF
09	2008.02 JFMAフォーラム 2008 「ユニバーサルデザイン～ある企業の導入事例」(プレゼン)	965KB PDF
10	2009.02 JFMAフォーラム 2009 「ユニバーサルデザイン・レビュー～設計が先UDを盛り込む」(プレゼン)	1.094KB PDF
11	2009.02 JFMAフォーラム 2009 (サマリー)	352KB PDF
12	2010.02 JFMAフォーラム 2010 (サマリー)	440KB PDF
13	2010.02 JFMAフォーラム 2010 (プレゼン)	520KB PDF
14	2011.02 JFMAフォーラム 2011 (サマリー)	25KB PDF
15	2011.02 JFMAフォーラム 2011 (プレゼン)	1.904KB PDF
16	2012.02 JFMAフォーラム 2012 (プレゼン)	709KB PDF
17	2013.03 JFMAフォーラム 2013 (プレゼン)	5.757KB PDF
18	2014.02 JFMAフォーラム 2014 (プレゼン)	1.985KB PDF
19	2015.02 JFMAフォーラム 2015 (プレゼン)	1.994KB PDF
20	2015.02 JFMAフォーラム 2015 (資料本編)	964KB PDF
21	2015.02 JFMAフォーラム 2015 (資料事例)	1.156KB PDF

04_ I AUD 国際ユニバーサルデザイン会議

01	2002.12 国際ユニバーサルデザイン横浜会場(プレゼン)	2.631KB PDF
02	2002.12 国際ユニバーサルデザイン横浜会議 (論文英文)	231KB PDF
03	2004.10 国際ユニバーサルデザインブラジル会議 (プレゼン)	1.289KB PDF
04	2006.06 国際ユニバーサルデザイン京都会議「CASUDA」(プレゼン英文)	249KB PDF
05	2006.06 国際ユニバーサルデザイン京都会議「CASUDA」(論文)	46KB PDF
06	2006.10 国際ユニバーサルデザイン会議 2006	1.751KB PDF

05_ A I J 日本建築学会大会

01	2003.09 日本建築学会大会 「日本企業・団体のWPIにおけるUD導入の実態調査」(概観)	62KB PDF
02	2006.10 「オフィスのユニバーサルデザイン評価手法 その1」(概観)	27KB PDF
03	2006.10 「オフィスのユニバーサルデザイン評価手法 その2」(概観)	24KB PDF
04	2006.10 「オフィスのユニバーサルデザイン評価手法 その3」(概観)	25KB PDF
05	2009.09 日本建築学会大会 「ユニバーサルデザインを導入した新クリニクの開設」(概観)	72KB PDF
06	2009.09 日本建築学会大会 「患者満足度向上に向けた継続的改善の取組」(概観)	318KB PDF
07	2009.09 日本建築学会大会 「患者本位のFMとその成果」(概観)	78KB PDF

06_ 国際会議

01	2004.05 CIB論文「日米ユニバーサルデザイン比較調査」	548KB PDF
02	2004.12 KFMA ソウル大学シンポジウム (プレゼン)	952KB PDF
03	2004.12 KFMA ソウル大学シンポジウム (概観英文)	512KB PDF

07_ J FMA 「カレント」記事

01	2003.09 カレント「居酒屋とインターネットによるワークスタイル」	169KB PDF
02	2006.06 カレント記事「CASUDA」	96KB PDF
03	2006.06 カレント記事「オフィスマネジメントの守り(UD)と攻め」	930KB PDF
04	2009.01 カレント記事 「ユニバーサルデザイン研究部会の活動(その1)」	373KB PDF
05	2009.02 カレント記事 「ユニバーサルデザイン研究部会の活動(その2)」	343KB PDF
06	2009.03 カレント記事 「ユニバーサルデザイン研究部会の活動(その3)」	348KB PDF
07	2009.03 カレント記事 「ユニバーサルデザイン研究部会の活動(その3)」	348KB PDF
08	2010.05 カレント記事 「FMにおけるユニバーサルデザインの価値～最近のJFMA賞から～」	348KB PDF

08_ 季刊誌「ユニバーサルデザイン」記事

01	2004.02 季刊誌ユニバーサルデザイン記事「FMから考えるUD」	3.700KB PDF
02	2005.02 季刊誌ユニバーサルデザイン記事「シンポジウム」	330KB PDF
03	2005.02 季刊誌ユニバーサルデザイン記事「書籍:オフィスのUDに向けて」	321KB PDF
04	2005.06 季刊誌ユニバーサルデザイン記事「ユニバーサルデザイン・レビュー」	252KB PDF
05	2007.09 季刊誌ユニバーサルデザイン24号「オフィスのユニバーサルデザイン」	2.284KB PDF
06	2008.12 季刊誌ユニバーサルデザイン28号「JFMAのUDセミナー」	296KB PDF
07	2009.10 季刊誌ユニバーサルデザイン31号特集「ユーテコレビュー」	238KB PDF

09_ 記事 (専門誌)

01	2004.10 企画書「UDレビュー」	126KB PDF
02	2005.11 専門誌「Ud&Eco13号」記事「ワークプレイスのUD&Ecoレビュー」	129KB PDF
03	2006.01 雑誌「公共建築1875(2006.1)」記事「ワークプレイスのユニバーサルデザイン」	49KB PDF
04	2007.03 東京建築士会誌「建築東楽」記事「ユニバーサルデザインの事例」	295KB PDF
05	2007.04 オフィスマーケット「ユニバーサルデザインの科学」記事(第1回目)	1.619KB PDF
06	2007.06 オフィスマーケット「ユニバーサルデザインの科学」記事(第2回目)	3.252KB PDF
07	2008.12 近代家具「JFMAユニバーサルデザイン研究部会 週末セミナー」	351KB PDF
08	2012.09 近代家具 623号「UDの視点から考えるオフィスの環境の行方」	264KB PDF
09	2013.1 BELCA NEWS 142号「ワークプレイスのユニバーサルデザイン」	594KB PDF

10_ 講演

01	2003.02 WFM「ワークプレイスのユニバーサルデザイン」(プレゼン)	363KB PDF
02	2003.11 アダプティブエンバロイメントへのプレゼン@BOSTON	214KB PDF
03	2004.02 イトーキプロフェッショナルセミナー「オフィスのユニバーサルデザイン」(プレゼン)	513KB PDF
04	2004.05 北海道UD機構「ユーザーのためのグッドデザイン」(プレゼン)	400KB PDF
05	2004.12 KAST 教育講座 (概観)	60KB PDF
06	2004.12 KAST 教育講座(概観) (プレゼン)	5.224KB PDF
07	2005.02 JFMA フィーチャー「UD研究部会」	7.386KB PDF
08	2005.03 NTT 講演会「ユーザーのためのグッドデザイン」(プレゼン)	7.458KB PDF
09	2005.08 UD 研究部会「価値モデル(市川)」	84KB PDF
10	2005.08 UD 研究部会「企業価値から考えるFM(似内)」	359KB PDF
11	2006.03 三車陣講義「ユニバーサルデザイン」(プレゼン/中止)	7.407KB PDF
12	2006.05 松本UDN講演「ユニバーサルデザインとダイバーシティ」(プレゼン)	970KB PDF
13	2006.06 建築美術工芸協会講義「ワークプレイスのユニバーサルデザイン」	6.696KB PDF
14	2006.09 JFMA フィーチャーセミナー「オフィスのベース性能としてのUD」(プレゼン)	6.796KB PDF
15	2006.10 東洋大学市民大学講義「住空間のユニバーサルデザイン」(プレゼン)	8.702KB PDF
16	2008.06 JFMA-WS「オフィスへのUD導入事例」	858KB PDF
17	2011.08.01 NEO公開研究会記念シンポジウム「働く楽しさとは何か」(プレゼン)	858KB PDF
18	2012.04.25 UD 研究部会「自然光の刑事変化に対応した照明システムのオフィス導入効果」	1.930KB PDF
19	2012.10.31 UD 研究部会「私の身体能力の減退と、幸いにも一人で復職・就労が出来た13年間を語る」(株)パリアフリーカンパニー 代表取締役 中澤 信	(1) 360KB PDF (2) 378KB PDF
20	2012.11.27 UD 研究部会「最近のUDへの取り組み聞話・・・」 森山 政与志	1.160KB PDF
21	2014.11.12 計測自動制御学会「DIのためのUD」 似内 志朗	4.057KB PDF
22	2014.11.19 自立院がい者ワーカー展15年 森山 政与志	2.328KB PDF

11_セミナー(UD研究会主催)

11_01 企業経営と福祉のユニバーサルデザイン

01	ユニバーサルデザインをめぐる企業動向 (2008.9.6 第1回週末セミナー)	322KB PDF
	中沢信 (NRI/アール・カンパニー社長/立教大学講師)	
02	JSCカレッジのデザイン (2008.9.6第1回週末セミナー)	153KB PDF
	大島清教 (カレッジデザイン/代表)	
03	「不動産証券化投資」から見るユニバーサルデザインの位置付けと価値 (2008.9.6第1回週末セミナー)	125KB PDF
	小町利夫 (企業年金連合会年金運用部不動産担当部長)	
04	企業経営と福祉のユニバーサルデザイン (NRF研究会)	182KB PDF
	(2008.9.6第1回週末セミナー) 中沢信・大島清教・小町利夫/進行 似内志朗	

11_02 ユニバーサルデザインから考える福祉デザイン

01	バウアレイによるユニバーサルデザインの取り組み (2008.10.4 第2回週末セミナー)	2,044KB PDF
	間瀬樹省 (バウアレイ/デザイン部施設デザイン室長)	
02	福祉におけるユニバーサルデザインの取組 (2008.10.4第2回週末セミナー)	1,145KB PDF
	竹綱肇浩 (福祉経営戦略部/主任デザイナー)	
03	福祉のユニバーサルデザイン事例 (2008.10.4第2回週末セミナー)	454KB PDF
	加藤雅士 (福祉マーケティング/本部商品開発統括部長)	
04	JSCカレッジにおけるユニバーサルデザイン (2008.10.4第2回週末セミナー)	373KB PDF
	鈴木隆 (デザインマーケティング/本部クリエイティブデザイン部長)	
	福祉創造研究所)	
05	ユニバーサルデザインで考える福祉デザイン (NRF研究会) (2008.10.4第2回週末セミナー)	384KB PDF
	間瀬樹省・竹綱肇浩・加藤雅士・鈴木隆/進行 似内志朗	
06	ユニバーサルデザインの視点から見た福祉づくり (2008.9.10 JFMAのイニシアチブ)	472KB PDF
	藤井康志・浅田瑞之 (岡村製作所オフィス研究所)	

11_03 ユニバーサルデザインの計画手法

01	ユニバーサルデザインと要求条件設定方法について (2008.11.15 第3回週末セミナー)	410KB PDF
	成田一郎 (大成建設FM推進部 室長)	
02	ユニバーサルデザインの「見える」 (2008.11.15第3回週末セミナー)	545KB PDF
	森山政与志 (日本郵政東日本エリア/外室グループ/チーフ/新潟医療福祉大学非常勤講師)	
03	CASUDA/福祉のユニバーサルデザイン評価方法 (2008.11.15第3回週末セミナー)	88KB PDF
	沢田英一 (清水建設技術研究所主任研究員/工学博士)	
04	福祉サービスの障害者に対応した既存福祉整備 (2008.11.15第3回週末セミナー)	56KB PDF
	見玉達朗 (東京電力グループ/マシーナ/工学院大学博士課程)	
05	ユニバーサルデザインの計画手法 (NRF研究会) (2008.11.15第3回週末セミナー)	229KB PDF
	森山政与志・沢田英一・見玉達朗/進行 成田一郎	
06	災害時のためのユニバーサルデザインのユニバーサルデザイン (2008.11.12 JFMAのイニシアチブ)	505KB PDF
	佐野友記 (早稲田大学准教授/工学博士)	

11_04 ユニバーサルデザイン導入事例

01	福祉空間のユニバーサルデザイン向上 (2008.12.6第4回週末セミナー)	358KB PDF
	宇多村志伸 (富士通のユニバーサルデザイン事業部/デザイン/デザイン部)	
02	みずほ銀行のユニバーサルデザインへの取り組み (2008.12.6第4回週末セミナー)	96KB PDF
	平田賢典 (みずほ総合研究所 研究開発部)	
03	ファミリーマートから見た福祉のユニバーサルデザイン (2008.12.6第4回週末セミナー)	354KB PDF
	金英範 (ファミリーマート/本部/RFM事業本部/マネージャー)	
04	企業のユニバーサルデザイン導入事例 (NRF研究会) (2008.12.6第4回週末セミナー)	310KB PDF
	宇多村志伸・今井寿志・金英範 /進行 諏訪直俊 (東京海上日動グループ/代表)	
05	建築設計者から見るユニバーサルデザイン (2008.12.10JFMAのイニシアチブ)	391KB PDF
	原利明 (鹿島建設建築設計本部/チーフ)	
06	福祉のユニバーサルデザイン導入事例 (2008.1.21 JFMAのイニシアチブ/2008.6.11 JFMAのイニシアチブ(同内容))	612KB PDF
	似内志朗 (日本郵政/JFMAユニバーサルデザイン研究会会長) ・加藤真由美 (リマックス/証券(当時))	
07	2008.08 日本福祉のまちづくり学会 「お茶の水・井上眼科クリニックの取り組み」 (梗概)	151KB PDF
08	2009.08 日本福祉のまちづくり学会 「お茶の水・井上眼科クリニック継続的改善の取り組み2」 (梗概)	353KB PDF

11_05 Universal design for diversity

-多様性を想像/創造する-(2013/04/06週末セミナー)

01	講演1 「ユニバーサルデザインの実践」 NRI/アール・カンパニー 一般社団法人/デジタル/代表理事 中澤 信	資料なし
02	講演2 「介護施設・福祉施設のユニバーサルデザイン」 カレッジ/代表 一級建築士 一級福祉住環境コーディネーター 間瀬樹省	資料なし
03	講演3 「農業分野における障害者就業」 農業経済総合研究所 主任研究員博士(農業経済学) 濱田健司	資料なし
04	講演4 「障害者の高等教育政策」 東京財団研究員兼制作アドバイザー 三原岳	(1) 936KB PDF (2) 275KB PDF (3) 402KB PDF
05	講演5 「私が獲得できた身体能力の実演と13年間を語る」 日本郵政施設部 新潟医療福祉大学非常勤講師 一級建築士 森山政与志	(1) 112KB PDF (2) 612KB PDF

11_06 第2回UD研究会の報告

「人材の多様性時代の福祉〜ワーク多様性とファミリーサポート〜(2013/08/31週末セミナー)

01	講演1 「外資系証券会社のD&I (Diversity & Inclusion)の考え方と事例」 金英範 (みずほ/日本証券株式会社 総務部長/グループ/チーフ)	931KB PDF
02	講演2 「外資系IT企業のワークライフとDiversityの事例」 大森崇史 (インテリ株式会社 コネクト/サービス/東京/マネージャー)	資料なし
03	講演3 「人材の多様性に対する課題と取り組み」 小宮山美樹 (グループ/株式会社/ファミリー)	資料なし
04	講演4 「EYEの人から見た日本の福祉文化」 熊谷比斗史 (株式会社/福祉/研究所 代表取締役)	資料なし
05	講演5 「ワークライフの最も身近な課題〜男&女と老&若〜」 古阪幸代 (三機工業株式会社/ファミリー/事業部 専門部長)	1,528KB PDF

これまでの研究の一部ですが、
2002-2010の活動記録
(国際会議・学会・FMフォーラム・掲載記事・報告書・論文等) が掲載されています。



http://www.jfma.or.jp/research/index.html

UDナイトトーク2021

開催中

森山氏がコーディネータとなり、各界で活躍する友人たちとのトーク「マイ・ストーリー 多様性と個性、相反する葛藤の中で 11話」。ユニバーサルデザイン・都市・建築・ワークプレイスに関わるトーク。ZOOMで予約・登録なしで参加できます。無料、途中参加・退席もOKです。

詳細情報

<http://www.jfma.or.jp/news/FMevent20210506.pdf>

ご参加

https://zoom.us/j/98213179876?fbclid=IwAR3c0ccijPCpxa-76gjwqZaFPX_kzTFqG7PbFZe-dxPdERnNiDAUchaEsIQ#success

ミーティングID: 982 1317 9876、パスコード: 970487

生活環境・企画設計工房（主宰:森山）とJFMAユニバーサルデザイン研究部会（部会長:似内）共催企画



是非、ご聴講ください。参加無料。
そしてもし関心がありましたら、研究部会にお入りください（JFMA入会が必要です）



コーディネーター

森山政与志（70歳）

左半身不随の一級建築士

不自由な肉体に健全な精神を宿り続ける

UDナイトトーク@ZOOM

森山政与志が友人達と語る11の夜話 2021

第1話 5月6日（木） 21:00～22:30
「障がい」も一つの個性として生きて来た
森山政与志 / 坂本崇博・黒須美枝・似内志朗

第2話 6月9日（水） 21:00～22:30
尊厳なきバリアフリー
川内美彦 / 仲田裕紀子, 似内志朗

第3話 7月7日（水） 21:00～22:30
私がやりたいこと
中澤信 / 児玉達朗, 似内志朗

第4話 8月12日（木） 21:00～22:30
音のない世界と音のある世界をつなぐ
松森果林 / 足立研, 今泉佳祐

第5話 9月8日（水） 21:00～22:30
JFMAのUDの葛藤と未来
似内志朗 & JFMAUD研究部会
/ 黒木正郎, 波多野弘和

第6話 10月6日（水） 21:00～22:30
形にする前の大事なこと
成田一郎 / 古阪幸代, 児玉達朗

第7話 11月10日（水） 21:00～22:30
共生社会における「モノ」と「コト」
星川安之 / 塩川完也, 曾川大

第8話 12月8日（水） 21:00～22:30
女性が社会で働くということ
古阪幸代 / 中島秀美, 仲田裕紀子

第9話 1月5日（水） 21:00～22:30
働き方改革というテーマにとって、
コロナ禍とは何だったのか？
坂本崇博 / 堀雅木, 山本英史

第10話 2月9日（水） 21:00～22:30
「建築」はどこへ向かうのか
黒木正郎 / 似内志朗, 松崎駿

第11話 3月9日（水） 21:00～22:30
デザインとは何か
田中一雄 / 黒木正郎, 似内志朗

JFMAユニバーサルデザイン研究部会
生活環境・企画設計工房 共催

マイ・ストーリー
多様性と個性、相反する葛藤の中で
十一話

UDとは何か

改めて、考えてみよう

本日の講義は「空理空論」です。
UDの価値を見直してみよう、という内容です。

2020年、Wikipediaの「ユニバーサルデザイン」記述をUDNJメンバーで議論・整理。

- **UDという概念**は、米ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター Center for Universal Design)の**ロナルドメイス**(Ronald Mace)が1985年に公式に提唱。
- 「年齢や能力、状況などにかかわらず、**デザインの最初から**、できるだけ多くの人が利用可能にすること」が基本コンセプトである。
- デザイン対象を**障害者や高齢者に限定していない**点が「バリアフリー」とは異なる。バリアフリーが、さまざまな利用者を考慮せずにつくってしまい、結果として生じた障壁（バリア）を「後から除去する」という不合理を、「**最初から誰にとっても使いやすいデザインで**」解消するというロナルドメイスの考えが反映されたものである。
- **欧米**では、バリアフリーがかなり進んだ後にUDの考え方が提唱されたため、その違いは理解されやすかった。しかしながら、**日本**においては「バリアフリー」が不十分なうちに「ユニバーサルデザイン」の考えが紹介されたため、**両者はしばしば混同**されており、ロナルド・メイスの考え方が、必ずしも正しく理解されているとは言えない点もある。
- 同様の概念として、ヨーロッパには**Design for All**という概念があり、英国からは、**Inclusive Design**も提唱された。現在、提唱されているSDGsの "**No one will be left behind**" (**誰も取り残さない**) も、考え方としては近い概念といえる。

→UDとは、様々な人の様々な使われ方を想像し、**最初からよく考えて設計・デザインしておくこと。**

ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター ロナルドメイス氏による7原則。

- どんな人でも公平に使えること。
(**Equitable use** / 公平な利用) ≡ 誰でもOK !
- 使う上での柔軟性があること。
(**Flexibility in use** / 利用における柔軟性) ≡ どうやってもOK !
- 使い方が簡単で自明であること。
(**Simple and intuitive** / 単純で直感的な利用) ≡ 考えなくてもOK !
- 必要な情報がすぐに分かること。
(**Perceptible information** / 認知できる情報) ≡ パッと見でOK !
- 簡単なミスが危険につながらないこと。
(**Tolerance for error** / うっかりミスの許容) ≡ 間違ってもOK !
- 身体への過度な負担を必要としないこと。
(**Low physical effort** / 少ない身体的な努力) ≡ 頑張らなくてもOK !
- 利用のための十分な大きさと空間が確保されていること。
(**Size and space for approach and use** / 接近や利用のサイズと空間)
≡ 狭さを気にしなくてもOK !

→UDは人を**モノグサ**にする？ →いえ、UDはモノの側の**敷居を低くする**だけ。あとは使う人次第。

世界のUDの市場規模は、2020年時点で**40兆円超**と言われる。

- 誰もが余裕を持って通過することのできる**幅の広い改札** →汎用性がある
- 病院等の医療用施設向けに開発されたが、多くの人々が心地よいと感じたために普及した**シャワートイレ** →汎用性がある
- 適切にデザインされた**身体的負担の少ないスロープと階段の組み合わせ**
状況に応じてエレベーターやエスカレーターとも組み合わせる →**選択肢がある**
- 絵文字（ピクトグラム）による視覚的・直感的な情報伝達と音声や音響、触覚による情報伝達の組み合わせ →**選択肢がある**
- ユーザーが自由に選択できる、多様な入力および出力装置（キーボード、マウス、トラックパッド、ジェスチャー、音声など）とそれらの接続、使用ができる**プラットフォームとしてのパソコンやスマホ等のハードとソフト** →**選択肢がある**
- 視認性やユーザーの感情に与える効果に配慮した**配色計画** →**感覚との整合**
- 複雑なマニュアルがなくても、**直感的に使用できる製品のデザイン** →**感覚との整合**
- 読みやすさ、視認性を向上させる目的で開発した**フォント** →**感覚との整合**

→UDには、**汎用性**（誰もが使いやすい）と**選択性**（使いやすいものをユーザーが選ぶ）がある。
One Design for ALL（汎用）と、Design for EACH（選択）の違い。

UDの目的とは何か（私論）

● UDは、いったい何のために必要なのか。

→なるべく多くの人が使えるようにするため

● なぜ、なるべく多くの人が使えることが必要なのか

→使えない人にとって不便だから

→使えない人が使えるモノは、すべての人にとってより使いやすいから

→使えない人を排除するのは社会的損失だから

→使えない人の尊厳を傷つけるから（忘れがちだが最も重要なこと）

● なぜ、尊厳が傷つくのか

→使える人と使えない人を分けてしまうから（差別が生まれる）

→使えないことは、その人の責任じゃない（障がい、高齢、怪我・病気、言語、性差・・・）

→社会の側が使う人に合わせるべき（医療モデル < 社会モデル）

→UDは、モノの側の敷居を低くする

→なるべく多くの人が使えるようにする = 排除する人をなるべく少なくする

UD・BFは「思いやり」「やさしさ」か（私論）

●UD・BFにはなぜ、「思いやり」「やさしさ」という言葉がよく使われるのか。

- UDはモノの側（社会の側）の敷居を下げること（＝社会モデル）
- しかし容易ではない（新築はよいが、既存改善は難しくコストもかかる）
- ハードの不足を、ソフト（オペレーション）でカバーするしかない
- ここに「思いやり」「やさしさ」という、心地よい言葉に頼る構造（公の役割の分担）

●日本では「思いやり」「やさしさ」は十分か

- 欧米と日本の実体験比較では、全く不十分（障がい者の声）
- 障がい者・高齢者への日本人の無関心・手助け不足は問題。
（街中での車いす利用者への手助け、優先席を譲らない、障がい者の外出が少ない）
- 日本の「思いやり」「やさしさ」 << 欧米の「パブリックマインド」
- パブリックな場所での行動にむずびつくか否か。文化的要素

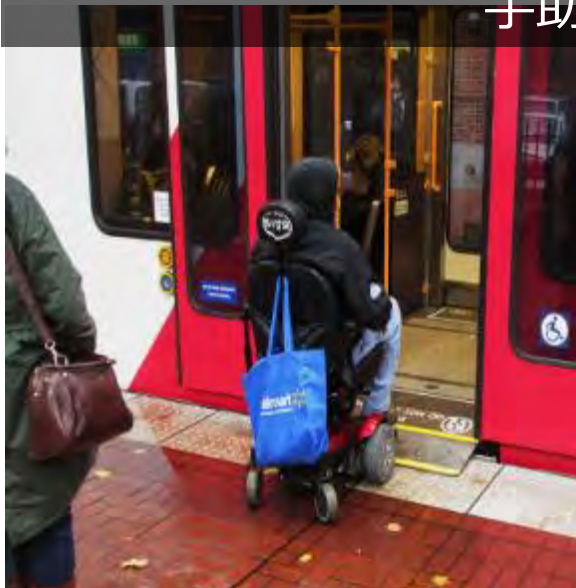
●「思いやり」「やさしさ」は悪いのか

- 必要だが、UDの不十分さ（ハードの問題）の免除ではない。プラスアルファ
- 「思いやり」「やさしさ」は施し。人に上下（差別）をつくり、尊厳を傷つける
- ほしいのは「施し」ではなく、当たり前に見える「権利」と守られるべき「尊厳」

米ポートランド LRT (路面電車)



手助けなしで車いすの人がどこでも動ける設計



ユニバーサルデザインが徹底されている

米ポートランド 車椅子の人を多く見かける



街でよく見かける車椅子
移動制約者が街に出やすい環境

見知らぬ人が手伝う光景をよく見かける



米ポートランド 人が中心のまち。様々な交通手段

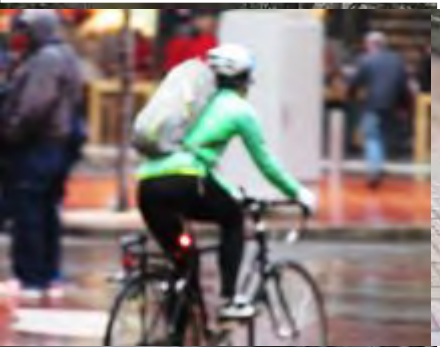


車がなくても十分生活ができる、人が歩いて暮らせる環境
公共交通、オープンスペース充実、都心居住
居心地のいい、人にやさしいヒューマンスケールのまちづくり



米ポートランド 自転車天国。人中心の多様な交通手段

自転車は重要な移動手段。LRTやバスで自転車を運べる
徒歩でも公共交通機関（LRT,バス）でも、車椅子でも、セグウェイでも



SDGsとは何か

誰ひとり取り残さない



「**サステナブルでないビジネスは長期的利益に結びつかない**」という懸念から、世界の投資家たちはサステナブルな事業・社会・環境を実現するために、各国政府や企業に強く働きかけ、ESGを動かしている（**ESGの本質**）

コロナ禍中に、**世界のESG投資は20%伸びた**(日本は1.8%)。

日本のマスメディア(テレビ・新聞)はコロナがはじまった2-3月にはESG.SDGsについて取り上げることを一斉にやめたが、ESGが加速する世界の様子を見て、日経新聞はじめ再び積極的に取り上げるようになった（日本のESG理解の浅さ）

ESG



SDGs



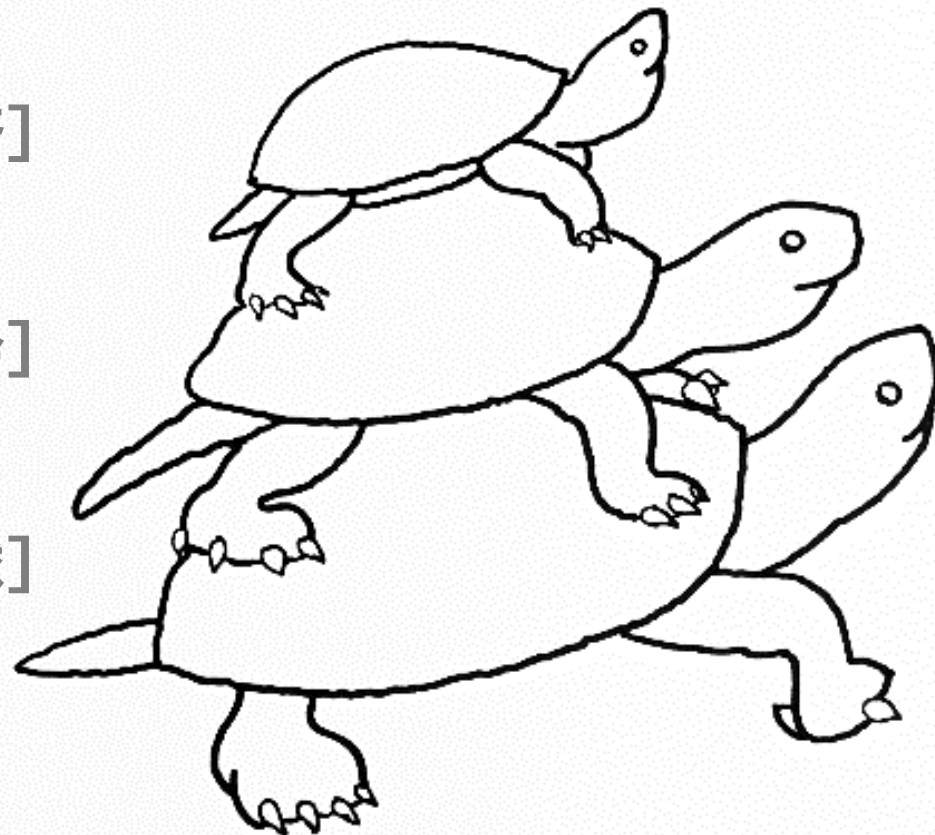
経済は社会に、社会は環境に依存している。

親亀（地球） > 子亀（社会） > 孫亀（経済）

孫亀 [経済]

子亀 [社会]

親亀 [地球]



MDGsからSDGs (国連2015)

出典：富士通総研作成資料

2001 -05

MDGsミレニアム開発目標

8ゴール21ターゲット

途上国のための目標／国連専門家主導

MDGs	
目標 1	貧困と飢餓の撲滅 (3)
目標 2	初等教育の完全普及 (1)
目標 3	ジェンダー平等と女性の地位向上 (1)
目標 4	乳幼児死亡率の削減 (1)
目標 5	妊産婦の健康の改善 (2)
目標 6	HIV/エイズ、結核、感染症蔓延防止 (3)
目標 7	環境の持続可能性 (4)
目標 8	パートナーシップ (6)

2016 -30

SDGsミレニアム開発目標

17ゴール169ターゲット

全ての国のための目標／国連全加盟国

SDGs	
目標 1	貧困根絶 (7)
目標 2	飢餓撲滅 (8)
目標 3	健康と福祉 (13)
目標 4	質の高い教育 (10)
目標 5	ジェンダー平等 (9)
目標 6	水と衛生 (8)
目標 7	クリーンエネルギー (5)
目標 8	適切な雇用・経済成長 (12)
目標 9	産業、技術革新、社会基盤 (8)
目標 10	格差是正 (10)
目標 11	持続可能な都市・コミュニティ (10)
目標 12	責任ある生産と消費 (11)
目標 13	気候変動への対応 (5)
目標 14	海洋資源の保全 (10)
目標 15	陸域生態系の保全 (12)
目標 16	平和、法の正義、有効な制度 (12)
目標 17	パートナーシップ (19)

- ・開発途上国 → 先進国を含め**地球的目標**に
- ・**環境問題**が大幅に増えた
- ・**平和・法正義**が加わった。
- ・開発途上国の課題の問題はまとめられた
- ・**先進国の課題**が大幅に追加された

(①貧困)



(②飢餓)



(③保健)



(④教育)



(⑤ジェンダー)



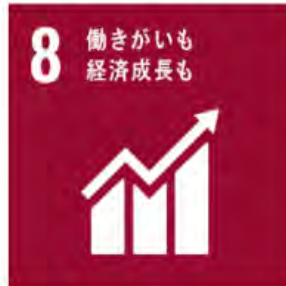
(⑥水・衛生)



(⑦エネルギー)



(⑧成長・雇用)



(⑨イノベーション)



(⑩不平等)



(⑪都市)



(⑫生産・消費)



(⑬気候変動)



(⑭海洋資源)



(⑮陸上資源)



(⑯平和)



(⑰実施手段)



持続可能な開発のための2030アジェンダ（国連）

●SDGsを含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の趣旨

- ・誰一人取り残さない持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標・169ターゲット・232指標が定められた
- ・5つの特徴：普遍・包摂・参加・統合・透明

●「人間」「人権」に関する部分（宣言から抜粋）

- ・この共同の旅路（SDGs）に乗り出すにあたり、誰一人取り残さない
- ・すべての人間が尊厳、平等、健康な環境の下、持てる潜在能力を発揮する
- ・目標とターゲットは（中略）・・最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力
- ・人種、肌の色、性別、言語、宗教、政治・信条、国籍、社会的出自、貧富、出生、障害等に関係なく、全ての人の人権と基本的自由の尊重、保護責任を有す。

●SDGsでは、なぜ「誰ひとり取り残さない」と言っているのか

- SDGsは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標
- しかしゴール達成において、弱い立場の人々は取り残されがち（グローバル、国内）
- 地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」を宣言
- 高い目標へ向かって、世界が「包摂」の価値観を共有しはじめていること自体が重要

ウェルビーイングを支えるUD

人フォーカスの時代



ウェルビーイング（幸福度）は富の源泉

工業社会（20世紀型）

カネ
(資金)

モノ
(アセット)

ヒト
(労働力)



知識社会（21世紀型）

ヒト
(知恵)

情報
(ICT)

カネ
(資金)

モノ
(アセット)

自動
(労働力)

余っている

生産性
創造性

「幸福度の高い社員の生産性は1.3倍、創造性は3倍、エンゲージメント、モチベーションも向上する」
慶應義塾大学 前野隆司教授



富

GAFAsの富の源泉は、人のアイデア。
企業間競争、都市間競争の本質は、
ナレッジワーカーの争奪戦と幸福度向上。

ウェルビーイング（幸せ感）の歴史

かつて

現代

快樂

生物として

Positive Emotion
前向きな感情を持つこと

意味

神と人間の関係

Meanings
人生に目的や意義を見出すこと

没頭

Engagement
没頭する幸せ。フロー(ゾーン)状態

人間関係

Relationships
良好な人間関係を持つこと

達成感

Accomplishment
達成感を味わうこと

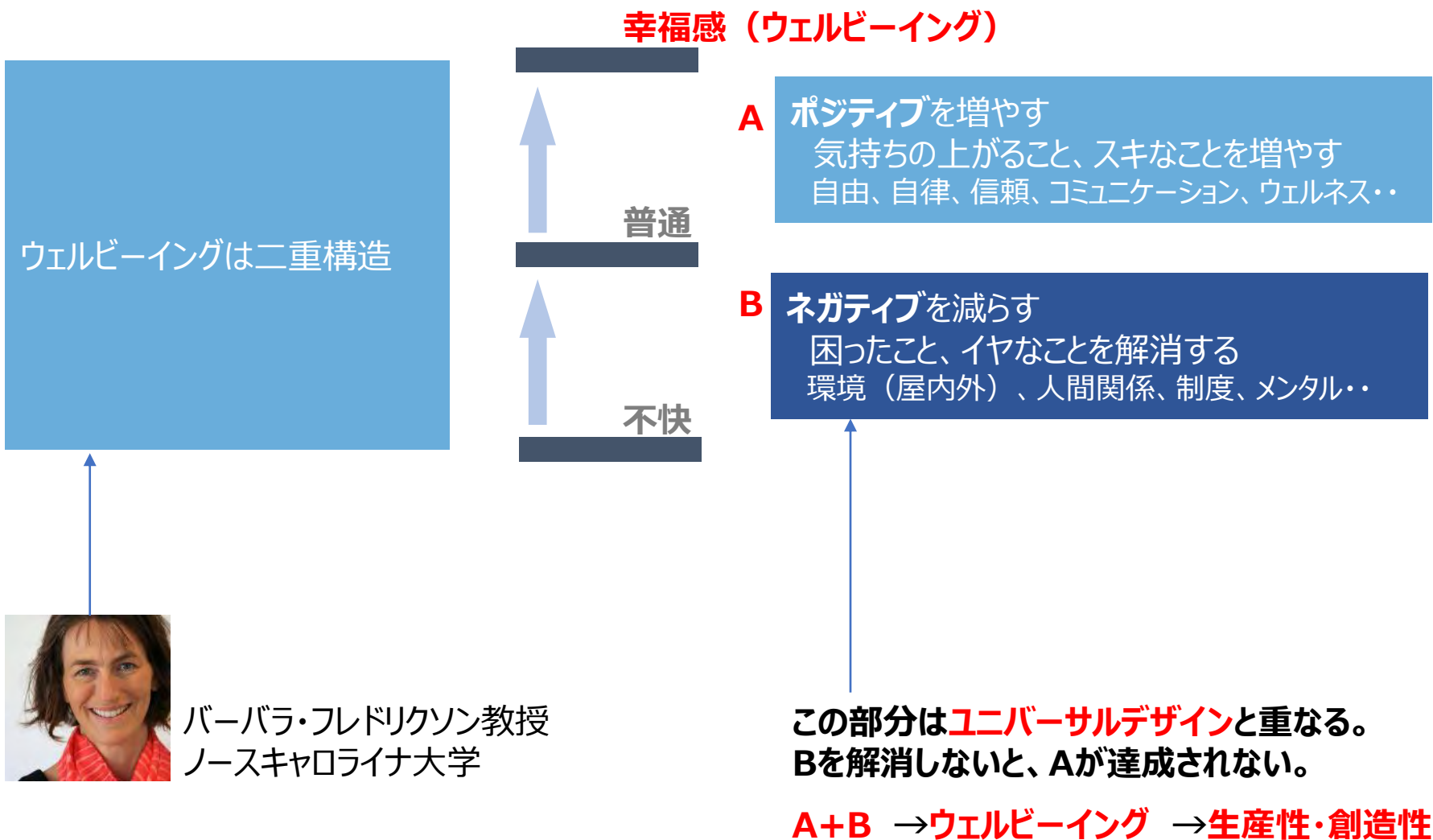


チクセント・ミハイ博士
「第3の幸せ」
ポジティブ心理学



マーティン・セリグマン博士
「現在人の5つの幸せ」
PERMA

ウェルビーイングに、ユニバーサルデザインは必須



バーバラ・フレドリックソン教授
ノースキャロライナ大学

具体的な対応イメージ

生産性・創造性
エンゲージメント



A ポジティブを増やす
気持ちの上がること、スキなこと

コミュニケーション

信頼感

共感・感動

自由・自律

B ネガティブを減らす
困ったこと、イヤなことを解消

快適性

ストレス
リラックス

健康な環境

自然環境

ハード面の考慮（建築・設備・・・）
ソフト面の考慮（人的対応・ルール・・・）
≡UD

安全性
安心感

食・運動

ユーザビリティ

アクセシビリティ

- ユニバーサルデザインへ近づける
- ①UDレビュー（建築、サイン等改善）
 - ②総合的対応（障害者差別解消法）
 - ③WELL評価の参照・活用



SGDs時代のユニバーサルデザイン

UDの読み方をアップデートする

UDの読み方をアップデートする（私論）

● 1985年ロンメイスのUD提唱時と、何が変わったのか。

- 1985年は工業社会、2021年は**知識社会**へと大きく変革。
- UDは**ユーザー視点かつ普遍性**の高いもの。現在でも**有効性は変わらない**。
- しかし、現代における「**UDの役割**」について見直して考えても良い。
- その際にヒントとなるのは、**①SDGsとの関連、②ウェルビーイングとの関連**。

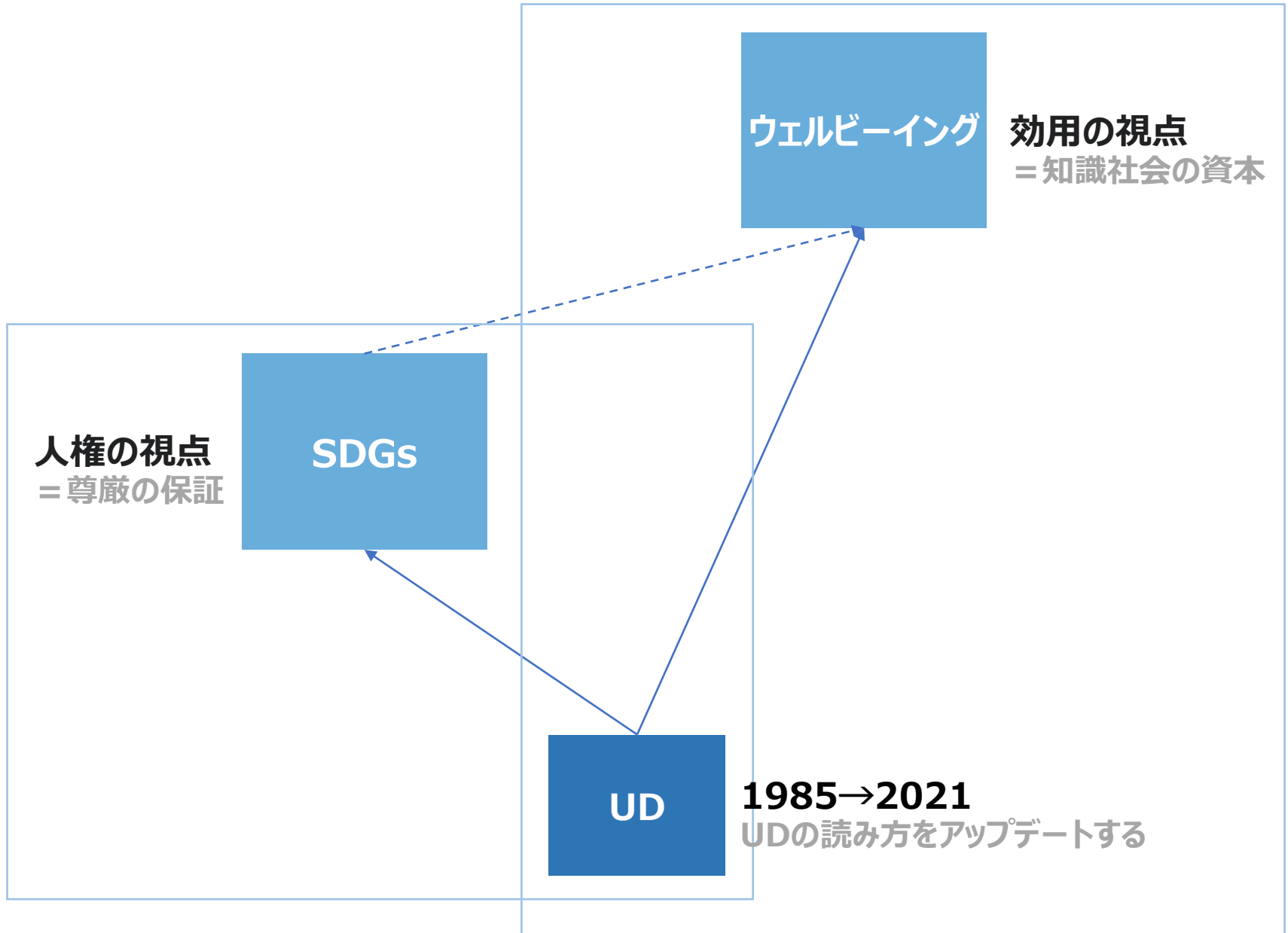
● ①SDGsとの関連（人権の視点）

- UD・BFの目的を、環境面におけるユーザーの「**尊厳の保証**」と明確化してはどうか
- SDGs（包摂）の考え方と親和性が高く、**UD推進のエンジン**となりうる
- 日本の特殊事情**、「思いやり」「優しさ」から、「人権」「尊厳」への意識転換

● ②ウェルビーイングとの関連（効用の視点）

- 人のウェルビーイングは、人の幸福だけでなく、**社会・経済にもメリット**が大きい
- UDは「**ウェルビーイングを支える基盤**」として定義できる
- UDの**必要条件（マスト）**としての「**尊厳の保証**」、**必要条件（ベター）**としての「**ウェルビーイング**」として再定義することはできないか。**パワー**を持てる大きな機会。

UDを価値



ご聴講、ありがとうございました

調査研究委員会ユニバーサルデザイン研究部会 似内志朗

お問い合わせは下記へ
shiro.nitanai@gmail.com